

広報

もり 中部の森林



写真：令和6年度新規採用者（中部森林管理局森林鉄道前）

もりたろう
私の森語り『森太郎が残してくれたもの』
信越トレイルクラブ 代表理事 木村 宏

特集

- ・新局長 森谷 克彦 ご挨拶
- ・新旧幹部の挨拶、新規採用者の紹介

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

2024/No.241



新局長就任ご挨拶

中部森林管理局長
森谷 克彦

四月一日付で中部森林管理局長を仰せつかりました森谷と申します。よろしくお願い申し上げます。

日頃より、長野県、富山県、岐阜県、愛知県の自治体の皆様方、森林・林業・木材産業関係者の皆様方には、国有林野の管理経営に特段のご支援ご理解を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、国有林勤務は六年ぶり、さらには、初めての現場任地が中部局管内でしたので約三十年ぶりの勤務となります。初めての現場で携わった森林の「現在」に再び関わる事ができることと、これまで幾度となく中部管内の森林・林業・木材産業の施策展開でお世話になった方々と、またご一緒できる喜びを日に日に感じているところです。

さて、昭和から平成、令和へと時代が移り変わり、わが職場、さらには森林・林業・木材産業を巡る情勢も、温暖化防止対策や生物多様性の保全など地球環境の保全に加え、デ

ジタル化などの技術進化の波の中で大きく変化してまいりました。

そのような中であって、現業という森林産業に関わる身として、私共の果たす役割とは何か、自身が大切にすべきことは何かなど、原点を忘れず職務にあたる事が何より重要と考えております。例えば、私共は国民からお預かりした国有林について、国土保全をはじめ、最大限かつ有効に、有する機能を発揮させ、将来にバトンを渡していく一時期を担っているわけですから、各々がスキルを磨き、日々業務に努力をしていく責務があります。

森林の状態を的確に分析する技術を身につけるため、自身の関与する国有林野を知り、先人の培った技術を学び、そして新技術を吸収し、森林経営に活かしていくことを常に意識していきたいと考えております。そのためにも、民有林・国有林を問わず、森林に足を運び、常に現場に身を置き、「学ぶ」ことを心掛けたい

と思います。

ウッドショック以降、森林関連産業は新しい局面に入っていると感じております。将来を見据えて、私共は最新技術を会得しつつ、地域の一次産業のポテンシャルを引き出せる実力を養うことを怠ってはいけな

待、つまり、林業の活性化を通じ、多面的機能を発揮させる役割を果たしてまいりたいと思います。

前職の森林研究・整備機構では、林木育種、研究企画・総務と森林保険部門など、主に研究の成果・評価から社会実装に至る分野に関わっておりましたので、林業機械などの効率化技術の開発、CLTなどの木質部材の性能評価、木材由来のセルロースナノファイバーや改質リグニンなどの新素材による化石燃料代替技術の開発など世に送り出すことにより、森林関連産業を支援してまいりました。本管内でも、地域振興の観点を含め、これらの成果が活用可能か、地元の皆様と一緒に考えていきたいと考えておりますし、さらには、花粉対策でも国民の皆様の期待は大きいと感じており、無花粉・小花粉品種や成長に優れたエリートツリー等新品種の普及にも力を尽くしてまいりたいと思います。

与えていただいたこの機会に感謝

し、最新のAIを含むIT関連技術を駆使できる人材育成などにも怠りなく力を入れるとともに、裾野の広い森林関連産業に携る者として、木材をはじめとする地域資源を有効活用する国有林の最前線で地域の皆様と共に努めてまいりたいと思います。

地域の皆様のご期待に叶うよう、これまで以上にご意見・ご助言をお聞かせいただきますようお願いいたします。

◆略歴 出身地 山形県

昭和63年4月

林野庁 管理部 厚生課採用(労働災害担当)

平成25年4月

林野庁 林政部 経営課特用林産対策室長

平成27年4月

四国森林管理局 計画保全部長

平成30年1月

林野庁 森林整備部 研究指導課長

令和3年4月

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 審議役

令和4年4月

国立研究開発法人森林研究・整備機構理事(企画・総務・森林保

退任のご挨拶

前局長 今泉 裕治



このたび、中部森林管理局長を退任することになりました。在任中は管内の各自治体をはじめ関係機関や関係団体・事業体、地域住民・一般市民の皆様など多くの方々にお世話になりました。ありがとうございました。

私が就任した直後の昨年五月には新型コロナウイルスが五類感染症に位置付けられたことなどから、在任中は皆様と対面でお会いしたり現場にお邪魔する機会も多く作ることができました。その中で、皆様から、中部森林管理局及び管内森林管理署等に対する期待や職員への温かい励ましの声をたくさん聴かせていただきました。

本誌昨年四月号で、「皆様からの声にこれまで以上に耳を傾け、幅広い角度から闊達に議論・検討しながら取組を進める必要がある」と書かせていただきました。これを十分果たせたかと問われると心許ない限りですが、国有林を「国民の森林」として管理経営する上で、皆様との双方向の情報共有や対話が何よりも大切と考え、私自身だけでなく局署の全職員を挙げて、分かりやすい情報発信に努めるとともに皆様からの様々なご意見・ご助言に真摯に耳を傾けるよう取り組んできました。

とりわけ、本誌「中部の森林」は、私たちと皆様とを繋ぐ大切な「窓」の一つであり、中部森林管理局の「顔」だと考えており、編集長をはじめ本誌の編集に関わる全てのスタッフと力を合わせ、皆様の興味・関心に応え、分かりやすく読みやすい誌面となるよう努力してきましたつもりです。

本年度からは、新たな「国有林野の管理経営に関する基本計画」の下、国有林野の公益重視の管理

経営を一層推進するとともに、その組織・技術力・資源を活用して森林・林業施策全体の推進に貢献することとしており、国土強靱化基本計画に基づく治山対策、地球温暖化対策計画に基づく成長の旺盛な森林の造成、「新しい林業」の実現に向けた技術開発と民有林への普及、花粉症対策の加速化、30 by 30目標の達成に向けた生物多様性保全の取組等を推進するほか、SNSも活用して効果的な情報発信と国民の皆様の声の聴取に努めることとしています。

また、本年度は「森林環境税」の課税が始まるほか、森林空間を観光や健康づくり等に活用したり、生活空間に木材を利用する機運も益々高まると予想されます。

さらに、能登半島地震により甚大な被害を受けた山地の早期復旧や林業・木材産業の復興に向け、当局としても管内及び全国の関係者の皆様と協力して取り組み、被災者の生活と生業の再建に寄与していく必要があります。

このように、国有林にとどまら

ず民有林を含めた課題やニーズが一層多様化・高度化する中、中部森林管理局では、今回就任した森谷新局長の下、その使命・役割を十二分に果たせるよう一層の努力を傾けていかれることと思っておりますので、皆様におかれましても、引き続きのご理解・ご協力を切にお願いする次第です。

末筆ながら、皆様の益々のご発展とご健勝を祈念して、退任のご挨拶とさせていただきます。



インタビュー取材 (R5.5.30：局長室)

新幹部の紹介(4月1日)



次長 (名古屋事務所長)
井口 真輝
いぐち まさき

このたび、次長を拝命しました井口です。

森林整備部長からの局内異動となりますので、前職での経験を活かしながら、より幅広い視点に立って、仕事に取り組んでいきたいと思っております。

いま、森林・林業を取り巻く状況は、自然災害の多発化・激甚化、森林に対する期待の多様化、人口減少に伴う木材需要の不透明感など、これまでにない様々な課題を抱えています。

こうした中、森林づくりを進めるにあたっては、公益重視を基本とするのはもちろんですが、昨年十二月に策定された「国有林野の管理経営に関する基本計画」で謳われて

いるように、森林・林業施策全体の推進への貢献、国民の森林としての管理経営にもつながるようしていく必要があります。

このため、これまで以上に国民の皆様をはじめ、自治体や事業者からのご意見にしっかりと耳を傾けるとともに、職員同士が気軽に、かつ活発に発言・議論できる風通しのよい職場づくりに向けて取り組んでまいりますので、引き続き、よろしく願います。

【略歴】出身地 愛知県

- 平成2年4月 林野庁 業務部 業務第一課 採用
- 平成28年8月 林野庁 林政部 木材産業課 木材製品技術室長
- 平成30年4月 九州森林管理局 計画保全部 長
- 令和3年4月 林野庁 国有林野部 経営企画課
- 国有林野総合利用推進室長
- 令和5年4月 中部森林管理局 森林整備部長



森林整備部長
村上 卓也
むらかみ たくや

このたび、森林整備部長を拝命しました村上です。

中部森林管理局は、木曾ヒノキをはじめとした木材の安定供給とともに、自然環境の保全、水源のかん養、自然災害の防止、保健・休養など、森林の多面的な機能の発揮の上でも重要な役割を果たす多くの特色ある国有林を擁しています。

引き続き、中部森林管理局が期待されている役割を果たしていただけるよう職員の皆さんと業務を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願います。

【略歴】出身地 東京都

- 平成5年4月 林野庁指導部研究普及課採用
- 平成29年8月 農林水産省 農村振興局 整備部 設計課 入札契約技術企画官
- 令和元年12月 東北森林管理局 津軽森林管理署長
- 令和3年7月 東北森林管理局 青森森林管理署長

お別れにあたって
退官のご挨拶

前次長 (名古屋事務所長)

高橋 東
たかはし あづま



三月末をもって、退官いたしました。皆様方にはたいへんお世話になりました。

一年という短い期間ではありましたが、「新しい林業」の実践など、森林・林業における諸課題に取り組ませていただきました。

また、職員間はもとより、関係者の皆様とのコミュニケーションを深めることに、一定の役割を果たせたのではないかと考えております。

最後になりますが、皆様方のご健勝と地域の森林・林業・木材産業が益々発展されますことを心からご祈念申し上げます。お別れのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

新規採用者の紹介

- ① 出身地
- ② 趣味・特技
- ③ 社会人になつての抱負



① 千葉県八街市

② バレーボール、食べ歩き

③ 迅速かつ丁寧に業務に取り組みこころを心掛け、より良い森林づくりに貢献していきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

うちだ むつき
内田 夢月
(東信署)

① 長野県長野市

② 食べること、市場調査、弓道

③ 初めてのことはかりで不安なこともありますが、国有林の適切な管理運営のため、知識を吸収して業務に貢献できるよう頑張ります。

おおさわ なおふみ
大澤 直史
(北信署)

① 大阪府摂津市

② 楽器演奏、散歩、写真撮影

③ 一日でも早くお役に立てるよう、様々なことをよく見聞きし、学ぶ姿勢を忘れず、業務に励んでまいります。

みやけ まさよし
三宅 正義
(南木曾支署)

① 大阪府大阪市

② ドライブ、ゲーム

③ 至らぬ点ばかりですが、日々の学びを糧に社会人として経験を積み重ね、大きく成長していきたいです。

とよしま ゆうだい
豊島 雄大
(木曾署)

① 長野県松本市

② 山林や河川で活動すること、流木等での物づくり

③ ただ指示を待つだけではなく、自ら行動していきたいと考えています。少しでも早く業務に慣れたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

はぎわら こうし
萩原 項之
(東信署)

① 愛知県春日井市

② 旅行、ドライブ

③ 地域における森林管理に貢献できるように、日々の業務を通して精進してまいります。

こはら ゆたか
小原 豊
(飛騨署)

① 長野県松本市

② ドラマ鑑賞、バドミントン

③ 日々多くのことを吸収して、少しでも早く業務に慣れ、力になりたいです。よろしくお願ひいたします。

ふるた ゆき
古田 優希
(飛騨署)

① 愛知県名古屋市長

② ドライブ、音楽、映画鑑賞

③ コミュニケーションを大切にしながら、様々な方と森林管理に取り組んでいきます。よろしくお願ひいたします。

かわの じゅんや
川野 純也
(飛騨署)

① 愛知県一宮市

② 硬式テニス、縦走登山

③ 国家公務員となつた以上、その名に恥じないよう、誠実に業務に努めてまいります。

わたなべ はやと
渡邊 隼人
(愛知所)

① 静岡県浜松市

② ライブに行く、飲酒

③ 一日でも早く仕事を覚え、お役に立てるよう頑張ります。よろしくお願ひいたします。

ありもと ことり
有本 琴里
(東濃署)

① 愛知県岡崎市

② サイクリング、バドミントン

③ 昔から慣れ親しんだ森林を守る素敵な仕事に関わることができたので、仕事に誇りをもって業務に励んでまいります。

しばた しゅんすけ
柴田 隼輔
(岐阜署)

①愛知県一宮市
②食べること、お菓子作り
③これから経験していくことをしっかりと吸収し、業務に活かしていきたいと思えます。よろしくお願ひします。



谷口 文葉
(中部局)



①長野県佐久市
②読書、パン作り
③日々ご迷惑をお掛けしておりますが、一日でも早くお役に立てるよう努力してまいります。よろしくお願ひいたします。



飯島 弘恵
(中部局)



①愛知県豊橋市
②天体撮影、イラスト制作
③業務に真摯に取り組み、皆さんのお役に立てるよう努力してまいります。よろしくお願ひいたします。



濱口 青空
(伊那谷事業所)



①長野県長野市
②読書、散歩
③一日でも早く仕事を覚え、皆様のお役に立てるよう努力していきます。よろしくお願ひします。



中村 夏菜
(中部局)



①長野県長野市
②散歩、料理
③何事にも真摯に向き合い、皆様のお役に立てるようになりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。



若狭 治
(中部局)



①長野県塩尻市
②釣り、バイク、園芸
③己の未熟さと向き合いながら日々素直に学び、成長を重ねて立派な社会人となるべく精進してまいります。



川上 和希
(中部局)




令和六年四月一日、新たに十八名の職員が採用され、管内各署等に配属となりました。四月四日、本局において入庁式が行われましたので、その様子をご紹介いたします。

ようこそ！
中部森林管理局へ

①山形県山形市
②登山、探鳥、ハーブ
③100年先の森林をよくしていくよう、日々多くのことを吸収していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



菊池 真以
(中部局)



記念撮影
森谷局長、白石総務企画部長、山崎計画保全部長、北村総務課長、遠藤企画調整課長と採用同期初の記念の1枚。



13:30~

先輩職員祝辞
毎日の気持ちのよい挨拶、体調管理、ふりかえりについてのアドバイスと、ともに成長していこうとのメッセージ。



13:20~

局長訓示
人との出会いを大切に、人生を豊かにするためにも林野庁の仕事と職場に愛着を持ってもらいたいと訓示。



13:10~

R6.4.4 入庁式トピックス

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南信森林管理署

大鹿森林事務所

森林官 菅沼りりこ

大鹿森林事務所は、長野県下伊那郡大鹿村に位置していま



赤石岳などを含む大鹿村内の国有林

す。大鹿村には中央構造線が走り、山の中で塩水が湧き出す、ロマンと危険が漂う美しい秘境です。

管轄する森林は、赤石山脈(南アルプス)の赤石岳などを含む大鹿村内の国有林です。面積は約八、三〇〇haを有し、人工林・天然林比は一对九で天然林が多く占めており、登山地として多くの方に利用されています。

日頃の仕事としては、林野巡視から貸付けする土地の現地確認など、様々な業務を実施しています。森林での仕事以外にも、市町村・県・消防職員と協力した山火事予防パレードや、多種多様な会議への出席もあり、外部の方々との連携も重要な業務です。

このように、いろいろな仕事



山火事予防パレード

があります。地域に親しまれる国有林を意識して日々の業務を行っています。

■未来の担い手へのメッセージ

森林官は、私の小学生の頃からの夢でした。森林官になるためには、まず国家公務員試験に合格し、その後、様々な林野庁の業務を経験したのちに、よう

やく辿り着くことができます。余談ですが、私にとっては、今月がまさにその記念すべき月なわけです。

林野庁を一つの会社だとすると、日本一の大地主の会社に勤めていることになります。

また、人よりもかなり長い時間を生きる森林を相手にする仕事は、とても誇り高いものです。ある人から、森林を施業するには、曾祖父父母の代から曾孫の代まで7世代を考えると言われたことがあります。

一国一城の主とも例えられる森林官は、地元の人の声を聴き現場で行動できる、かつこい仕事です。



駒ヶ岳登山にて



シリーズ

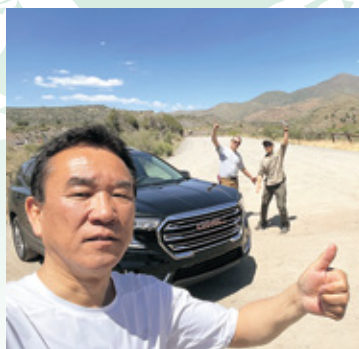
「私の森語り」

もりやた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「森太郎が残してくれたもの」



信越トレイルクラブ
代表理事
木村 宏
きむら ひろし

■自己紹介

平成十六年に国有林の局境でもある関田山脈を主体として整備された信越トレイル。今回は開設のきっかけともなったブナの森の保全活動を紹介いたします。

■活動内容

平成十二年、林野庁は生態系の形成において重要な役割を果たしてきた国有林内の巨樹・巨木一〇〇選を発表しました。長野県では四つの巨木が選定され、そのうちの一つがブナの大木「森太郎」

でした。信越トレイルは、この森太郎の保全活動がきっかけで誕生したといっても過言ではありません。

当時、飯山市鍋倉山麓には名前がついたブナの大木がいくつもあり、毎週のようにこのブナに逢うためのハイカーが山麓に集まっていました。私は、飯山市の自然体験施設「なべくら高原・森の家」に勤務しており、ブナの森にお客様をいざないながらも、ハイカーによる山道や木の根元の踏圧、直接木肌に触れたり登ったりと、巨木ブナもさることながら周辺環境の破壊にもつながる行為に懸念を抱いていました。そこで、生態系に極力負荷を与えない山道づくりや、ブナとの接し方について啓発活動を行いました。

多くのボランティアの方々の「森太郎が、健全な姿でいてほしい」との想いが活動のすそ野を広げ、やがて、この道づくりが鍋倉

山麓にとどまらず、ブナの森が続く長野県と新潟県の県境の道の開削へと範囲を広げていきました。この道こそ斑尾山から苗場山までの歩く道「信越トレイル」一一〇キロなのです。



地域の里山の風景

■メッセージ

令和四年五月、「森太郎」が突然倒れました。毎年保全活動を通じ、観察を続けていたにもかかわらず、意外な（枯死寸前といった印象はありませんでした）結末を迎えました。「森太郎」は四〇〇歳という地球上でも最も長生きな生態としての価値や森が長い年月をかけて更新していく様、森の中での巨木の立ち位置や動植物との関わりなど、様々なメッセージを発信し続けてきました。倒れてもなお、木の幹に新たな木の芽や菌茸類が寄生し、横たわった幹の周りには日が当たり、新たなブナの若木が

成長し始めています。森の生態、代替わりの仕組みを我が身をもって観察しなさい、と言っているようです。信越トレイルはこのブナの森の保全活動と同じく、生物多様性を基本とするガイドラインを掲げ、人と自然の共生を念頭に置いた活動をしています。まさに「森太郎」の教えを実行しているのです。



倒れても森林や人を育てる森太郎

○連絡先

飯山市照岡1571-15
NPO法人
信越トレイルクラブ事務局
<https://www.s-trail.net/>



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第36回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「長野営林局庁舎」

現在の中部森林管理局の庁舎は、昭和三十一年に竣工した旧「長野営林局」の庁舎が使われています。昭和二十二年に長野営林局が発足した当時は、本連載「帝室林野局木曾支局庁舎」(令和五年三月号)でご紹介した長野県福島町(現在の木曾町)の庁舎でしたが、これ



昭和30年頃
建設途中の長野営林局庁舎

が長野市に移転することとなります。

この当時の道路事情では、福島町から長野市への自動車での移動に七時間以上かかったと伝えられます。移転物資の運搬には営林局・各営林署の官用トラックが動員され、移転時期には毎朝十五台程のトラックが発発していたそうです。

「下写真 昭和三十一年の竣工当時の庁舎」



「下写真 昭和三十一年当時の庁舎屋上からの風景」

建設当時の庁舎周辺は田畑が多く広がり、どこか浮いた存在の建物だったとのことですが、昭和三十年代・四十年代の高度経済成長期には徐々に周辺の開発も進んでいきました。

また、かつては庁舎内に売店や電話交換室やタイプ騰写室、敷地内に弓道場やテニスコート、時代によってはゲートボール場などがあつたそうです。

昭和四十三年五月にセスナ機から撮影された庁舎



長野営林局庁舎は平成十一年三月の国有林野事業の再編により中部森林管理局の庁舎となり、その後の耐震改修工事などを経ながらも現役の庁舎として使われ続けています。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。



特異な山体に広がる原生的な森林

笠ヶ岳希少個体群保護林

設定目的

志賀高原の笠ヶ岳(二、〇七六
m)は上信火山帯に位置して
おり、オオシラビソ、シラビソ、
ダケカンバ等により構成されて
いる原生的な天然林の保護・管
理をしています。

地況・林況

笠ヶ岳は、約五万年前に地下の
マグマが地表付近で固まり、噴火
寸前で活動を停止した鐘状火山
です。その独特の山体の北斜面に
広がる当保護林には、右に示した
樹種のほかブナやコメツガ等が
みられ、露岩が多い山頂付近には
ハイマツも分布しています。

所在地
長野県 下高井郡 山ノ内町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを
読み込んでください。

Good Wood Workers

「フォトコン」作品からもっと伝えたい林業の魅力!



作品名:「ロックオン」

下島さん

作品のことを教えてくださー!

写真をよく見ていただくと雪が舞っているのが分かると思います。寒い冬にヒノキを伐倒している姿を撮影したもので、作品を通して林業の楽しさというより、厳しい部分を見せたいと考えました。

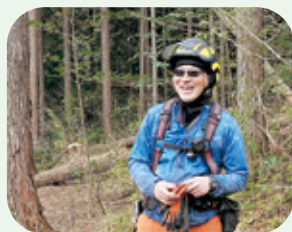
「中部の森林 林業従事者写真コンテスト(フォトコン)」に入選された有限会社ヤマカ木材の下島さんに、撮影した当時の想いや林業などについて取材をしたのでご紹介します。

国有林の

伐倒現場を取材してみよう!

自分は会社の事務を担当していますが、現場の従業員たちは厳しい条件下でも、より安全に伐倒できるよう、徹底的に指導を受けています。森林内で働く姿を見てもらったり、知ってもらったりすることで、子どもたちが将来なりたい職業の上位に「山師」をランクインさせたいです。

作品のモデルになられた湯之上さんが木曾森林管理署南木曾支署管内の国有林において伐採作業をしているとのこと、現場へ向かいました。お会いするまでは無口な職人のような方を想像していましたが、実際は、とても気さくな動物好きのお兄さんでした。



湯之上さん(左)と下島さん(右)

山でシカなどの生き物に会うのも楽しみの一つとのこと、ヘルメットなどの装具類にもこだわりを持ち、伐採の技術面だけでなく、山師としての前向きな発言がとても印象的でした。

現在、どこの業界でも人材の確保が課題となつていますが、普段は人目につかない山の中で、安全に直結するチームワークを大切に働く林業従事者の皆さんの紹介を通じて、これからも森林・林業の魅力伝えていきたいと考えています。

◆有限会社ヤマカ木材のご紹介◆

全国有数の良質材の産地、木曾谷で十七名の山師(作業員)が木曾ひのぎを中心に伐採、搬出を行っています。

急傾斜地が多く集材機による架線集材が主流の地域ですが、近年では欧州製のトラック型タワーヤードとウッドライナーを駆使し、生産性と安全性の両立を実現しています。

取材協力/有限会社ヤマカ木材
電話 0264-57-2538

https://www.instagram.com/yamaka_mokuzai/



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

この職場でも多くの方が悩まされている「花粉症」。春が来た喜びを素直に表現することが申し訳ないような気になります。幸い私の貯留タンクにはまだ余裕があるので、現時点では各種花粉とは敵対することなく融和関係を維持しています。ある日突然発症すると聞いていますので、いつかは私も仲間入りする日が来るのかもしれませんが。

令和6年度の林野庁予算には「花粉症解決に向けた緊急総合対策」としてスギ人工林の伐採・植替え等の加速化や花粉の少ない苗木の生産拡大などが盛り込まれています。花粉症の方にとっては目の敵かもしれないスギですが、「お山の杉の子」に歌われたように、戦後、荒廃した山へ期待を込めて植林されました。今後伐採された暁には、いきなりバイオマス燃料ではなく、様々な資材として利用されることを願っています。



ヤマカ木材では、伐採後に発生する末木枝条等を集荷し、バイオマス燃料とするために現地でチップ化しています。これにより、この後の造林に向けた地拵えや植付けなどの仕事がしやすく、作業効率が上がります。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

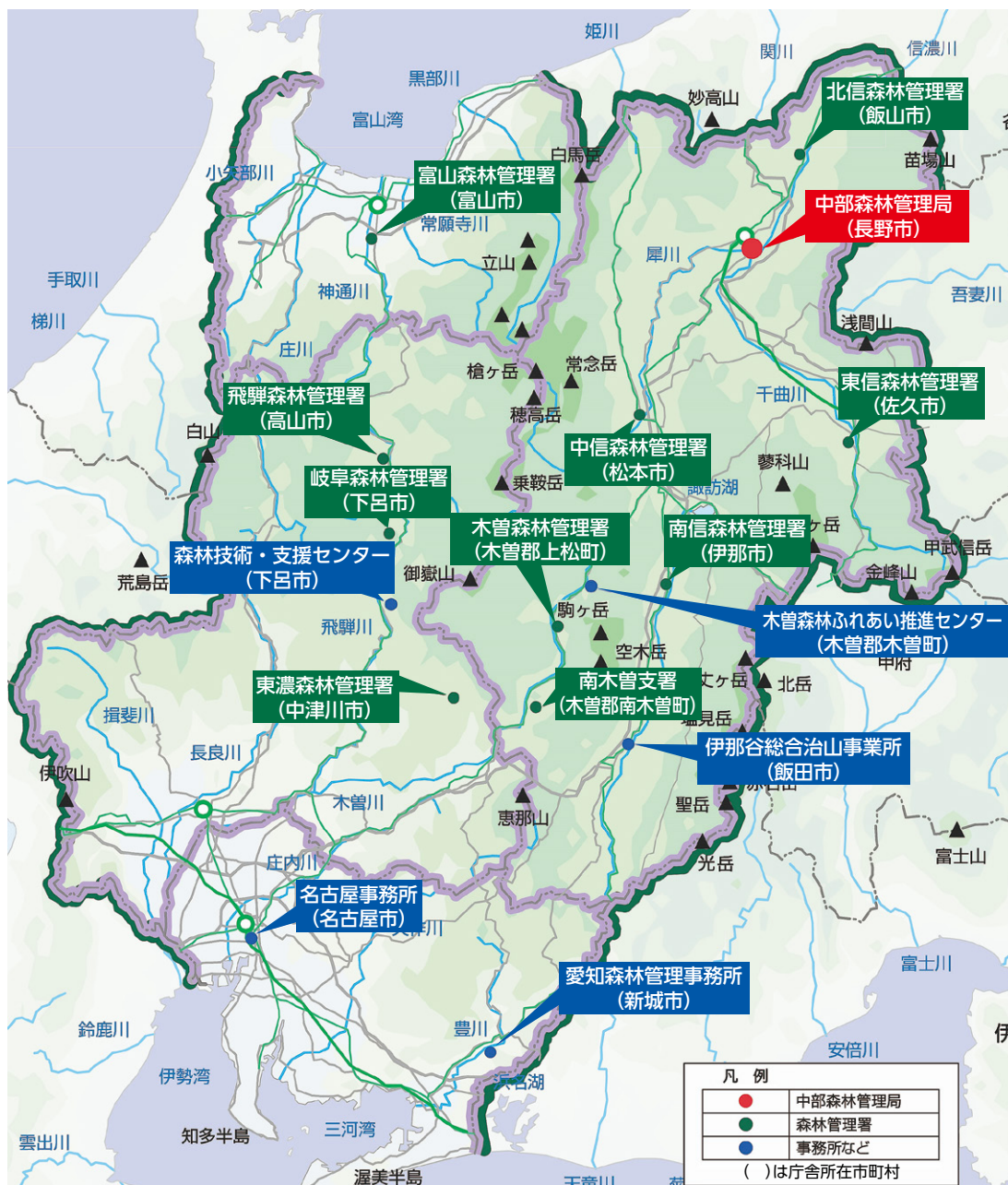


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。